

# 各いきいき・サロンからのメッセージ

## ふれあいいきいきサロン「酔芙蓉の会」

(代表 鈴木 ふき子)

ひきこもりがちな地域のお年寄りが、気軽に集えるサロンとして「酔芙蓉の会」が10年前に発足しました。月1回の集まりにはお茶のみ・料理・手芸・草取り・散策・研修などを取り入れ楽しく過ごす中でストレス解消や、情報交換の場になっております。

舟石川中丸区も、区画整理事業で若い人の姿や子どもたちの元気な声が聞こえるようになり、活気がみなぎってきました。今までのカラーにとどまらず、世代を超えたふれ合いができたらと思い、2年ほど前から年に2～3回若いお母さん方と一緒に、おやき作りや子どものおやつ作り、お花見などして絆が深まりつつあります。10月には若い人の主導で今風の餃子作りを予定しております。11月には恒例になりましたサロン間交流として、「中丸春秋会」と蕎麦打ちをします。交流の機会がなければ到底話もしなかつた人とも顔なじみになり、嬉しい成果でした。

毎月第4木曜日(8・12月は除く)午後1時半から舟石川中丸集会所で一緒にいかがですか!つながることを願いながら、これからも活動を継続していきたいと考えています。



▲酔芙蓉で世代を超えたふれあい

## ふれあいいきいきサロン「中丸春秋会」

(代表 酒寄 芳治)

「中丸春秋会」も発足して5年になろうとしており、月日の経つのは早いものです。何と云っても会員みんなで楽しく遊ぶという言葉に尽きるのでは…。

今年も春・秋のグランドチャンピオン麻雀大会、年2回(前期・後期)定例会総合成績及び年間皆勤者・功労者表彰など多彩な表彰を実施し、会員の士気向上につなげています。また、恒例の暑気払い・忘年会・交流会もあり会員の絆はバッチリです。

毎年4月の総会に年間行事を計画しており、昨年の子大町社協での研修会はアットホームな地域のふれあいの大切さを学ぶと同時に私たち東海村との温度差を感じるなど、当サロンにとって新しい1ページとなりました。健康麻雀の良さは知る者が知る。円転滑脱・八面六臂の鈴木会長だからこそ、会員も増え各種行事にも積極的に参加し、今後も地域に根を下ろした活動を展開していきます。



▲研修に熱中する会員たち

## ふれあい・いきいきサロン「笑遊会」

(代表 佐久間 博)

健康麻雀同好会が発足したのは、平成23年4月ですが、平成24年4月に中丸地区社協の地域サークルである「緑ヶ丘おいでマンド」を立ち上げたのを契機に、サロン活動として「笑遊会」の名称で登録しました。その当時は、会員数も18名でしたが、現在は21名を数えるほどになり、毎週木曜日の午後1時～6時まで1日も欠かすことなく開帳しています。昨年1年間の平均参加者数は5.8人/月でしたが、今年6月までは8.6人/月と急増し、最近では2卓からあふれたメンバーが、順番札を持って待機するほどの盛況ぶりです。技量の差はありますが、一切ハンディはつけていません。ハコテンになったときは「緑の銀行」から点棒を借りて継続して参戦できます。記録係が毎月、点数を集計した成績表を配ります。子どもの頃、学期末に通信簿をもらい、結果に一喜一憂したことが思い出されます。たかが麻雀、されど麻雀。今年度中に実現したい夢の一つ目は3卓を常に満杯にすること。二つ目は、総合福祉センター「絆」のホールで地区社協対抗の健康麻雀大会を開催することです。



ぬくもりの手と手をつなぐ中丸地区

# 中丸地区社協だより

第14号

平成25年8月発行

発行元 中丸地区社会福祉協議会  
発行元住所 〒319-1114  
東海村須和間345 中丸コミュニティセンター内  
電話029-287-3158

## ごあいさつ (中丸地区社協会長 笠原 武士)



まだまだ毎日暑い日が続いている今日この頃ですが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。日頃より、本会事業の推進につきまして、ご理解・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、去る4月20日の総会で本年度をスタートすることができました。本年度は、各地域で福祉ニーズを把握しやすいようにするため、各自治会単位の地域関連部会と事業別の事業関連部会、総務部会に組織を変更して活動することとしました。また、これまでに開催した「これからの地域福祉活動を考える会」で出された意見を参考に平成26年度に向けた事業を公募するなど、地区社協活動に気軽に参加していただけるようにしています。

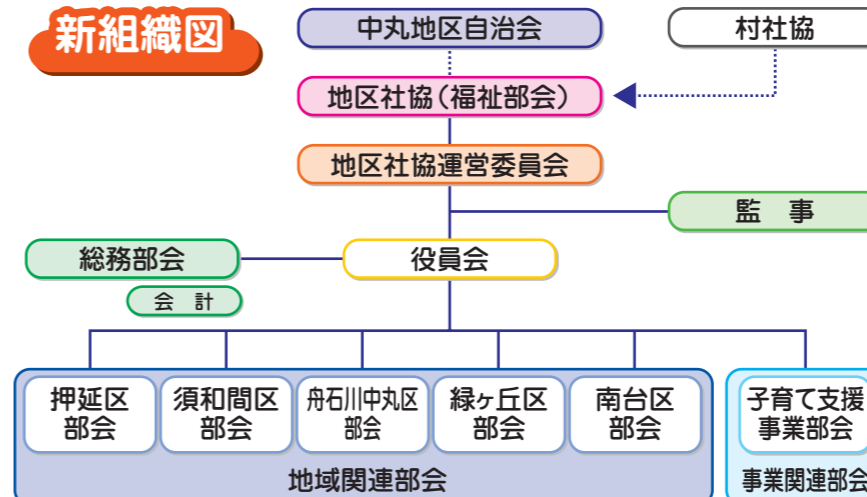
「無縁社会」などの言葉に代表されるように地域コミュニティが希薄化する一方で、高齢少子化などにより福祉ニーズは増大しています。地区社協を取り巻く環境は厳しさを増していますが、「向こう三軒両隣」の関係を良くして、「困ったときはお互いさま」と手を差し伸べられる地域づくりに向けた活動ができればと考えていますので、皆さまのご協力及びご指導・ご鞭撻をいただきたく、よろしくお願い致します。

## 平成25年度中丸地区社協総会開かれる

4月20日、中丸地区社協総会が中丸コミセンにおいて開催されました。

当日は、村社協の澤畑常務理事・根本中丸地区自治会長の他、各区自治会長・地区自治会正副会長のご出席をいただくなど、50人近くの方が参加されました。

冒頭笠原会長からの「発足から6年目迎えを迎え、新たな一歩を踏み出したい」との挨拶に引き続き、来賓のご挨拶をいただいた後、緑ヶ丘区の大串氏が議長として指名され審議に入りました。審議では、前年度の事業報告・決算報告や本年度の事業案や予算案などの他、地域関連部会や事業関連部会の設置など発足以来初めてとなる組織改正の提案があり、活やかな質疑応答の後全会一致で承認され無事終了しました。



中丸地区社協事務局  
中丸コミュニティセンター内  
担当 萩庭  
電話・FAX 287-3158

## 押延区部会から

(部会長 本多 千枝)

押延区ふれあい協力員サークルは16人の少数精鋭メンバーで構成され、三世代交流会・ふれあい敬老会・研修会・集会所開放型「おしのベサロン」などの事業を実施しています。

6月22日には、中丸コミセンにおいて三世代交流会を開催しました。輪投げなどのゲームと折り紙作品作りのほかカルタ取りを楽しみました。カルタ取りでは、高齢者と子どもの混合チームによる対抗試合の後、高齢者と子どもを分けたチーム編成による対抗試合とした結果、楽しい中にも真剣な表情が見られました。昼食後のビンゴゲームは、子供会の役員が担当し盛り上げていただきました。

毎月第1木曜日の「おしのベサロン」では、軽い運動や合唱・カルタ遊びなどを交えてお茶やおしゃべりを楽しんでいます。持参した弁当もみんなで食べるとおいしく、楽しいひとときになっています。

活動上の課題もありますが、地域の人とのふれあいを大切に、親睦が深められるよう、自然体を心がけながら前向きに取り組んでいきたいと考えています。



▲真剣にカルタ取り

## 須和間区部会から

(部会長 河野 玲子)

須和間区では、ふれあい協力員を自治会の各班から当番制で出していますので、毎年ほぼ交代しながらの活動となっています。25年度は22名の会員で高齢者の見守りとともに、地域のつながりを感じていただけるよう、協力して楽しく活動しています。

現在、須和間区の75歳以上の高齢者は94名で、一人暮らしの方もいますので、見守りの一環として、80歳以上の方に声かけしながら手作り弁当を配達しています。これからの予定としましては、コミセン祭りの手伝いや9月のふれあい敬老会があります。他の区に比べて行事の回数は少ないと思いますが、サークル活動を共有することで、会員同士のつながりができ、世代間交流や地域でのふれあいにつながっていくことを信じて、活動を継続していきたいと考えています。



▲高齢者への手作り弁当

## 舟石川中丸区部会から

(部会長 石田 正久)

本年度の総会で行われた組織改正は、地域を基にくられた縦割りグループと子育て等の事業を基とする横割りグループとに整理統合され、一段と役割が明確なものとなりました。

我々地域関連部会としては、高齢化少子化の進む趨勢の中で各地域共通ともいえる要援助者への支援の在り方と具体的な活動を模索しながら今日を迎えており、ともすれば同じ要援助者の中でも健常者が対象者になりがちなものとならざるを得ませんでした。

記憶も新たな大災害は、隠れた要援助者救済の在り方も突き付けられたこととなり、避けて通れない見守り活動の在り方と体制整備を求められるものとなりました。

災害発生直後の救援体制確立（災援プランの具体的当てはめ）やプライバシー問題はありながらも要援助者に対する安心サポーターの選任も一応の体制は整備されたところから、今後は状況の変化に伴う態勢整備のフォローと非常事態を想定した机上訓練や実地訓練等も行い、本支援体制を効果あるものに育成していくことが当面の使命と考えています。

## 緑ヶ丘区部会から

(部会長 佐久間 博)

「緑ヶ丘区おいでマンド」は、平成24年4月に誕生しましたが、自治会から各種団体として認可されたのが、今年6月になったため、本格的な活動はそれ以降となっています。部会員は現在16人で、発足時から4人増えております。主な活動は、サロン活動（健康麻雀「笑遊会」と集会所を拠点とした世代間交流事業（お茶を飲みながらの世間話・ゲーム・スポーツ大会・節分祭など）、そして、3.11を忘れないための「みんなで炊き出しをしよう」などです。また、補助事業として高齢者クラブ「白梅会」の会員に対する花苗プレゼント、茄子オーナー制度や刃物砥ぎ（いずれも無料）を行っており大変喜ばれています。これらの事業を実施する際には、高齢者クラブや青少年育成会の代表者の方々と協議を重ねたり、自治会防災会と連携を取ったりしながら内容の濃い活動としています。

試行錯誤の活動が多いですが、「無理せず、楽しく、一歩ずつ」を合言葉に地域に密着した活動を息長く続けていきたいと考えています。

## 南台区部会から

(部会長 道口 典子)

南台区では、昨年に引き続き世代間交流事業の充実を活動の中心にしています。年々メンバーの高齢化が進むなか、地域住民の方たちと協同で何かできないかと考え、自治会とタイアップした年2回のカレー（6月）・トン汁パーティー（12月）を開催しています。また、地域の交流の場“居場所づくり”が昨年よりスタートしました。

今年度から“ふれあいカフェ南台”と名前を改め、より気楽に参加していただけるようにしました。住民であれば誰でも自由に参加し、自分で好きなように過ごしてもらおう場の提供を、毎月第2金曜日、午前10時～午後3時、集会所で行っています。お茶を飲みながらおしゃべりしたり、健康麻雀をしたり、手芸をしたり、折り紙を折ったり、みなさん楽しそうです。会場準備や、お茶菓子の買い出しなどは、メンバーが当番制で行っています。「できるだけ一人の負担をなくし、みんなで楽しむ」を大切にしていきたいと思っています。



▲みんな思い思いに「ふれあいカフェ南台」

## 子育て支援事業部会から

(部会長 鈴木 朝美)

0歳児を持つ中丸学区のママたちと楽しい時を過ごしています。今年度は、5月から3月まで計8回の子育てサロンのほかに、ベビーマッサージ教室や英語ベビーサイン教室を予定しています。毎回、回覧でお知らせしますので、ぜひ、赤ちゃんを持つママは遊びに来てください。スタッフも全員、中丸地区に住む方々ですので、お互いに顔見知りになればと思っています。1時間という短い時間ですが、「一緒におしゃべりをし、笑い、おいしいお茶とお菓子でリラックス！」一息入れて子育てを楽しみましょう。



▲みんなで楽しく子育てサロン



▲ベビーマッサージに奮闘

**今後の予定** …絵本と遊ぼう、フラワーアレンジ、ハンドマッサージ、クリスマス会など